

26

(木)

ユダはタマルによつて

ユダは彼女を見て、顔を隠しているので遊女だと思った。ユダは、
 ……彼女に近寄つて声をかけた。「さあ、あなたのところに入ろ
 う。」彼女が自分の嫁だとは気付かなかつたからである。（15、16）

ヤコブの息子ユダに三人の息子が誕生します。長男はタマルという女性と結婚しましたが、子を得ずして死に、家を継ぐために次男がタマルと結婚しましたが、やはり子をもうけないまま死にました。ユダは三男をタマルに与えるのを躊躇し、タマルを実家に帰します。寡婦のまま子を得ずして終わることを悲しんだタマルは、遊女を装つて舅ユダに近づきます。ユダはそうとは知らずに彼女のところに入ります。しばらくして、タマルが姦淫によつて身ごもつた知らせを聞き、ユダは彼女を焼き殺すように命じますが、タマルが差し出した印を見て絶句します。彼女はユダによつて子をもうけたのです。彼女の名は、やがて救い主イエスの系図に登場します。「ユダはタマルによつてペレツとゼラをもうけ」（マタイ一3）。神の憐れみは、罪人たちの系図を救いの系図へと変えてくださつたのです。